

来年度(平成19年度)の検討事項

2007年3月29日

1. 本システムにおける実現可能事項と今後検討が必要な主な課題

「現場」における実現事項と課題

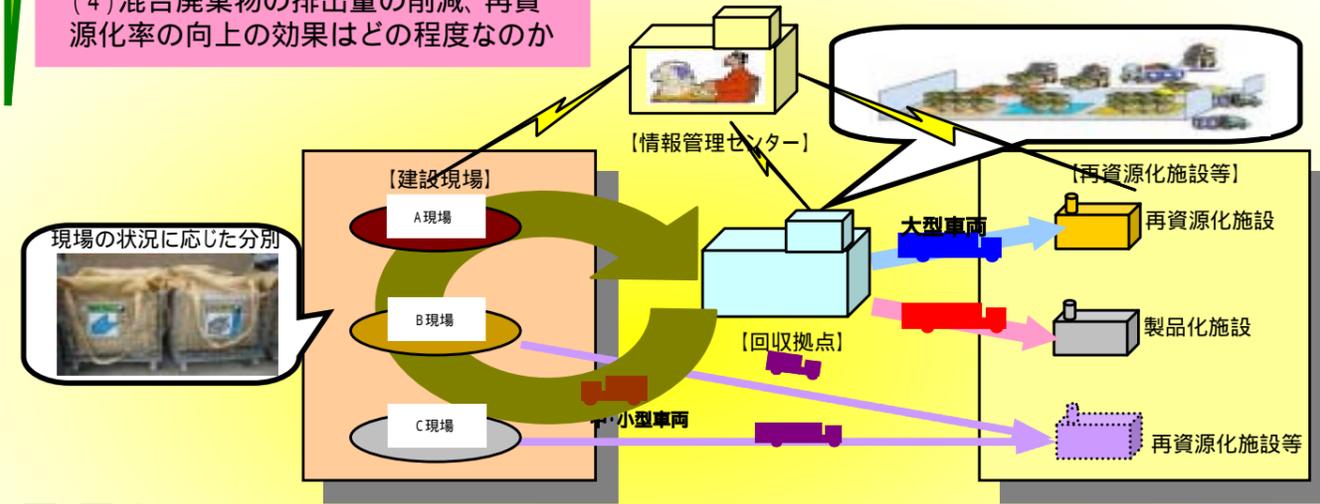
- (1) 現場の状況に応じた多品目の分別による混合廃棄物の排出量削減
- (2) 適切な分別による再資源化率の向上
- (3) 小口回収による保管スペースの最小化
- (4) 情報管理センターへの収集依頼や情報提供に基づく指定時刻どおりの回収による現場管理の軽減
- (5) 情報管理センターの提供する電子マニフェストと連携したシステムを用いた廃棄物の管理事務の軽減
- (6) 共通の分別基準による建設廃棄物の分別
- (7) 情報管理センターの提供するシステムにより、現場から排出した廃棄物のトレーサビリティを確保

- (1) システムの整備による建設現場側のコストメリットはどの程度なのか
- (2) どのような容器を用いて分別するのか
- (3) どのような基準で何品目に分別するのか
- (4) 混合廃棄物の排出量の削減、再資源化率の向上の効果はどの程度なのか

「回収拠点」における実現事項と課題

- (8) 再資源化施設等別に小中型車両から大型車両への積替えによる運搬効率の向上
- (9) 廃棄物の出荷時期の調整による運搬効率の向上
- (10) 廃棄物の粗選別による品質の向上

- (5) 回収拠点の整備主体、運営主体は誰なのか
- (6) 回収拠点を関連法令においてどのように位置付ければ良いのか
- (7) 回収拠点の整備による関係各者のコストメリットはどの程度なのか



システム全体の実現事項と課題

- (18) 運搬効率の向上によるCO₂排出量の低減などによる環境負荷の低減
- (16) システムの適用範囲はどの範囲か
- (17) どの程度の環境負荷低減効果があるのか

【凡例】

本システムによる主な実現事項	システムを実現するために今後検討が必要な主な課題
----------------	--------------------------

図 「小口巡回共同回収システム」のイメージ

「収集運搬・再資源化」における実現事項と課題

- (11) 廃棄物を複数現場から巡回回収することによる運搬効率の向上
- (12) 多品目の廃棄物を混載して収集運搬することによる運搬効率の向上
- (13) 情報管理センターの提供するシステムによる事務の軽減化
- (14) 分別基準の整備による廃棄物の品質及び量の確保

- (8) どのような条件を満たせば運搬効率が向上するのか
- (9) システムの整備による収集運搬側のコストメリットはどの程度なのか
- (10) どのような基準で何品目に分別するのか
- (11) 収集運搬方法に関連法令上の問題点はないか

「情報管理センター」における実現事項と課題

- (15) 電子マニフェストと連携したシステムを用いて廃棄物の管理を支援
- (16) 廃棄物の位置情報等を逐次把握し、現場等に対し排出した廃棄物の適正処理情報として提供
- (17) 最適な収集運搬計画及び収集運搬車両の運行管理を行なうことによる運搬効率の向上

- (12) 具体的なシステムの内容はどのようになるのか
- (13) システムの整備によるコストメリットはどの程度なのか
- (14) 情報管理センターの整備主体、運営主体は誰なのか
- (15) どのような条件を満たせば運搬効率が向上するのか

「現場」における課題

- (1) システムの整備による建設現場側のコストメリットはどの程度なのか
- (2) どのような容器を用いて分別するのか
- (3) どのような基準で何品目に分別するのか
- (4) 混合廃棄物の排出量の削減、再資源化率の向上の効果はどの程度なのか

「回収拠点」における課題

- (5) 回収拠点の整備主体、運営主体は誰なのか
- (6) 回収拠点を関連法令においてどのように位置付ければ良いのか
- (7) 回収拠点の整備による関係各者のコストメリットはどの程度なのか

「収集運搬・再資源化」における課題

- (8) どのような条件を満たせば運搬効率が向上するのか
- (9) システムの整備による収集運搬側のコストメリットはどの程度なのか
- (10) どのような基準で何品目に分別するのか
- (11) 収集運搬方法に関連法令上の問題点はないか

「情報管理センター」における課題

- (12) 具体的なシステムの内容はどのようになるのか
- (13) システムの整備によるコストメリットはどの程度なのか
- (14) 情報拠点の整備主体、運営主体は誰なのか
- (15) どのような条件を満たせば運搬効率が向上するのか

システム全体の課題

- (16) システムの適用範囲はどの範囲か
- (17) どの程度の環境負荷低減効果があるのか

A分科会での今後の主な検討事項(案)

(1) システムの具体的な内容等に関する検討

(2) 関連法上の位置付けに関する検討

(3) 整備・運営主体等に関する検討

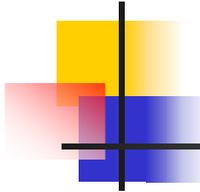
(4) システム導入による効果の検証

B分科会での今後の主な検討事項(案)

(1) 情報処理機能の具体的な内容に関する検討

C分科会での今後の主な検討事項(案)

(1) 分別基準に関する検討



2. A分科会での今後の主な検討事項(案)

(1) システムの具体的な内容等に関する検討

今年度の検討結果を踏まえ、更に小口巡回共同回収システムの具体化を進める。

本システムの導入が効果的な適用範囲(対象地域、工事規模、工種等)及び、それに応じたシステムの具体的な内容を検討

本システムに適した分別容器及び収集運搬車両に関する検討

(2) 関連法上の位置付けに関する検討

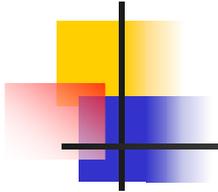
本システムの関連法上(廃棄物処理法等)の位置付けに関する検討行なう。

建設現場における制約事項とその解決方策

収集運搬(情報管理センターを含む)における制約事項とその解決方策

回収拠点における制約事項とその解決方策

など



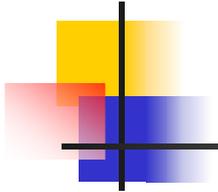
2. A分科会での今後の主な検討事項(案)

(3) 整備・運営主体等に関する検討

法的位置付けの検討結果等に基づき、

回収拠点、情報管理センターの整備主体及び運営主体、関係者の役割について検討

回収拠点の整備に必要なコストと整備スケジュールについて検討



2. A分科会での今後の主な検討事項(案)

(4) システム導入による効果の検証

H17センサスのデータ等、最新のデータに基づきシミュレーションを実施し次の項目に関して検証を行なうとともに、その結果に基づき本年度検討成果の点検・修正等を行なう。

各ケースについて、CO₂排出量の削減等環境負荷低減の効果について検証

本システムの導入による建設現場側のコストメリットについて検証

本システムの導入による収集運搬・再資源化側のコストメリットについて検証

「建設現場における分別基準」によって現場分別を実施した場合の最終処分量の削減、再資源化率の向上の効果の検証

2. A分科会での今後の主な検討事項(案)

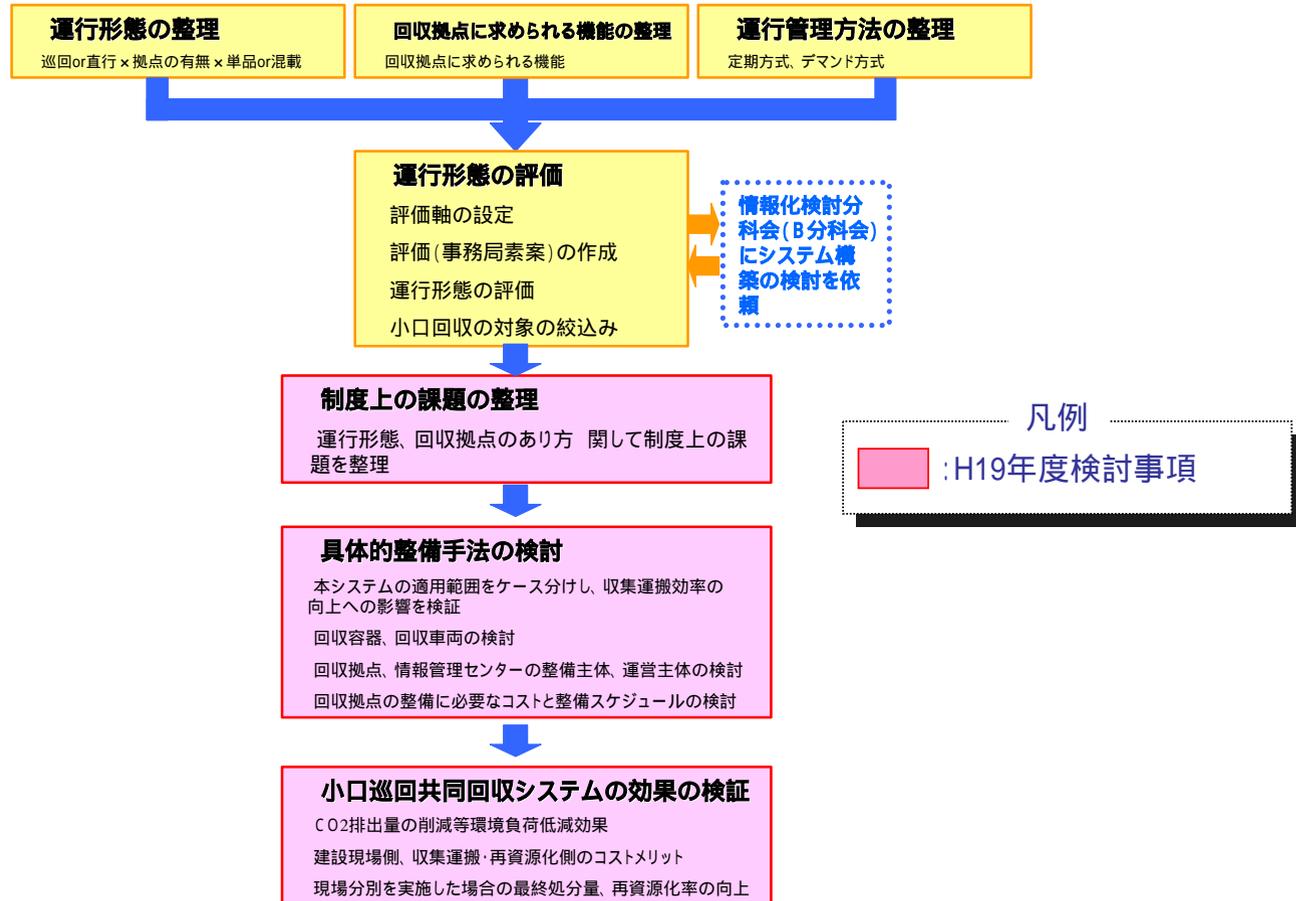
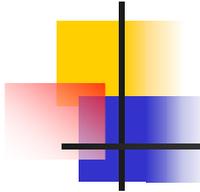


図 来年度(平成19年度)のA分科会の検討の流れ

注: 必要に応じ、H18年度検討成果の点検、修正等を行う



3 . B分科会での今後の主な検討事項(案)

(1) 情報処理機能の具体的な内容に関する検討

具体的な情報処理機能の内容に関する検討や情報管理センターの整備手法に関する検討を行う。

情報処理機能の具体的な内容の検討

電子マニフェスト等の既存システムとの連携方法

情報管理センターの整備に必要なコストと整備スケジュール

3. B分科会での今後の主な検討事項(案)

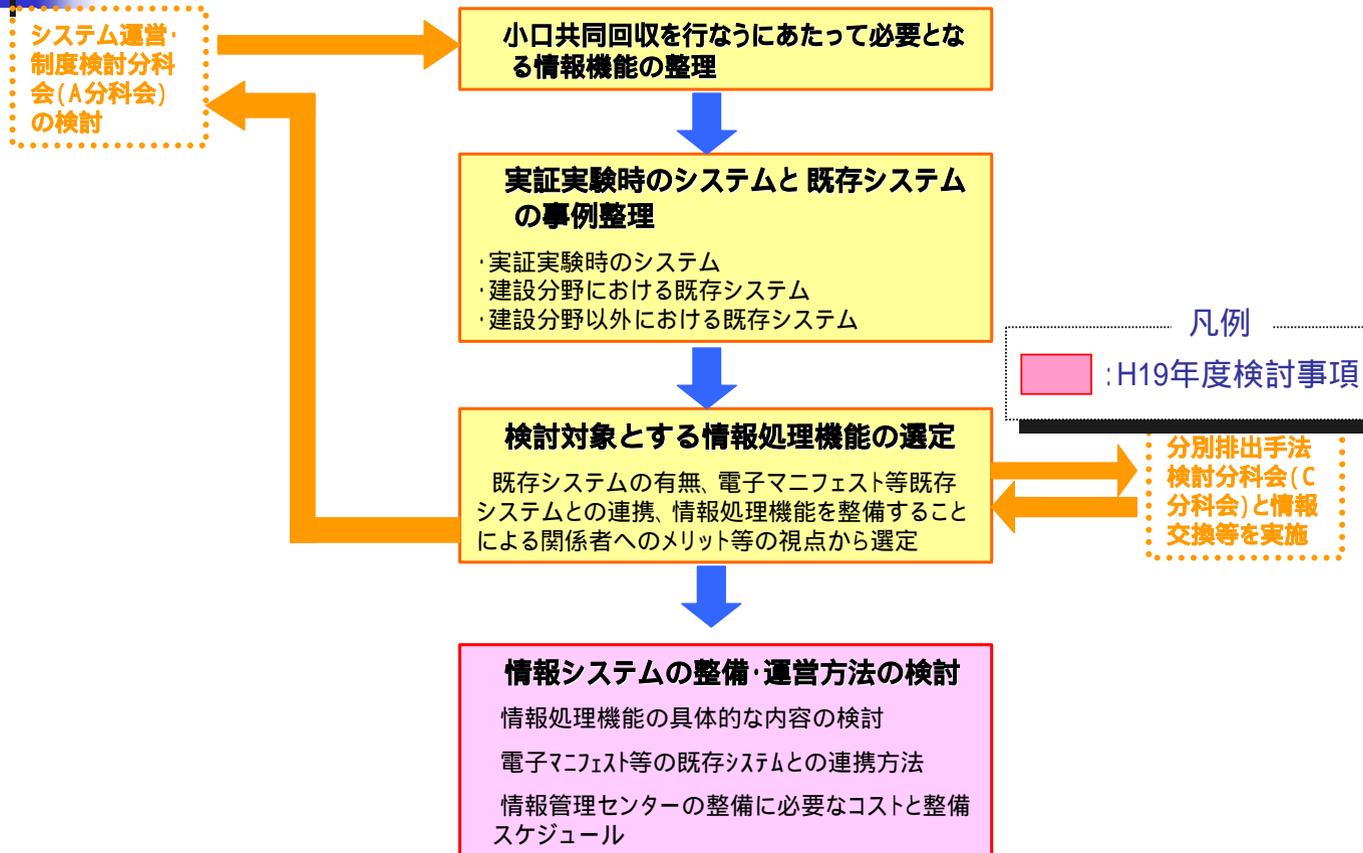
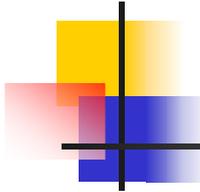


図 来年度(平成19年度)のB分科会の検討の流れ

注:必要に応じ、H18年度検討成果の点検、修正等を行う



4 . C分科会での今後の主な検討事項(案)

(1) 分別基準に関する検討

ステージ毎の分別基準の具体的な内容を検討するとともに、その普及方策について検討する。

建設現場における分別基準の設定及び支援マニュアル等の整備

「建設現場における分別基準」に関する情報を提供する仕組み、ならびに管理する仕組みの検討

なお、各分科会の検討事項は、適宜A、B、C分科会でそれぞれ連携を図りながら検討する。

4. C分科会での今後の主な検討事項(案)

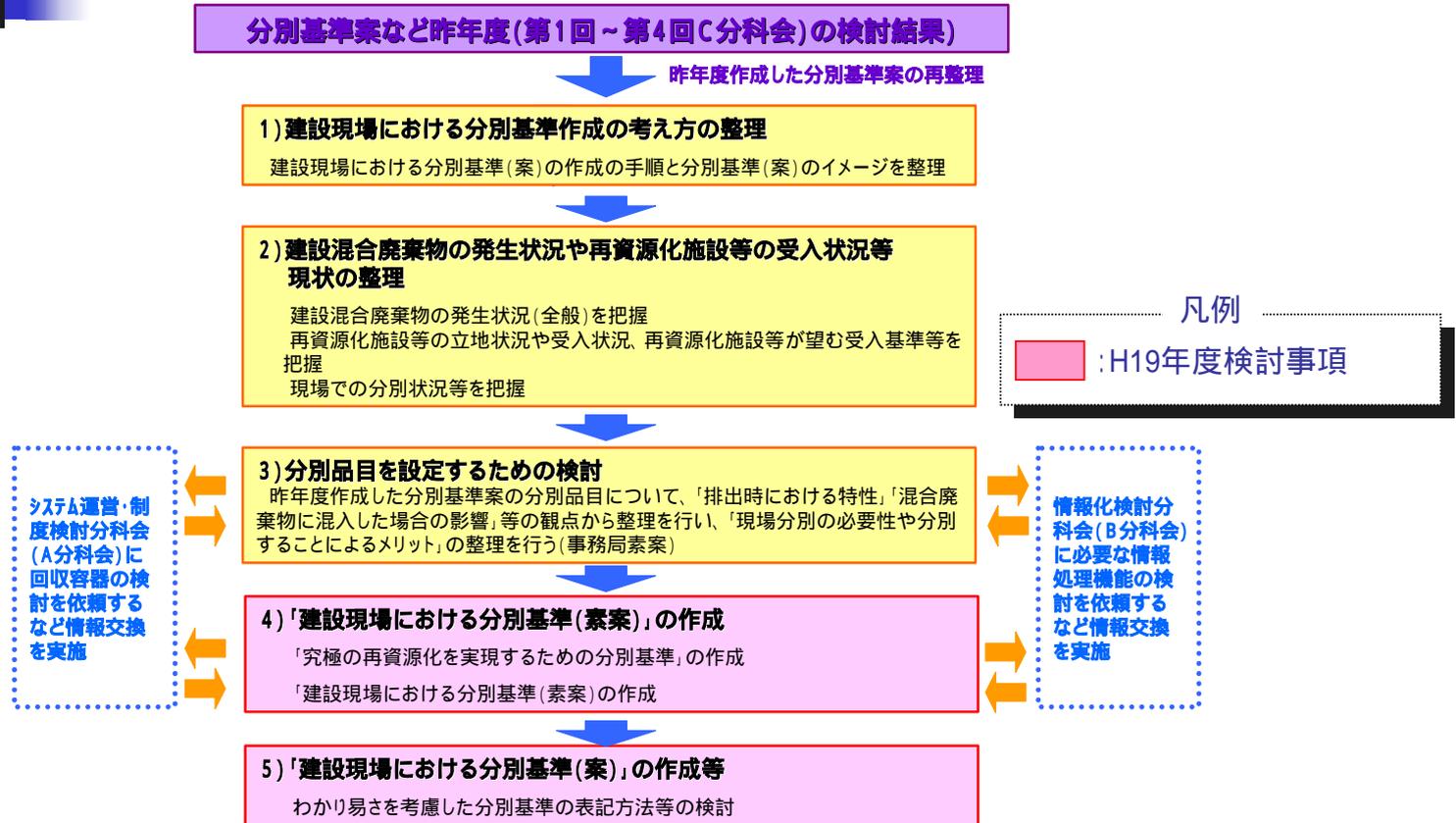


図 来年度(平成19年度)のC分科会の検討の流れ

注: 必要に応じ、H18年度検討成果の点検、修正等を行う